

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ
〈編集〉
加藤 晴 生 郎 豊
藤原 信 二
原 々 木
佐々 川
石 川
〒192-12武蔵村山市大南
2-26-12 藤原信二郎方
TEL (0425) 65-1839
(毎月1回発行)

第7回OB四連

稲グリは当日朝九時集合(予定) 演奏会「スケジュール」検討始まる

OB四連担当マネージャー 清水 実(三八)

いよいよあと四週間後に迫った第七回OB四連に向けて、四団マネージャー会議も熱気を帯びてきています。
六月十九日(月)夜、第十回目のマネ会(新宿住友三井ビル・住商石油会議室・十一名出席・新月

会山本さんのお世話を開き、当日の時間割り、運営手順等を中心に諸事検討がなされました。
東京文化会館は、各団の控室の他にリハーサル室を別に設けてあるので、従来と異なりステージ練習の他に「声出し」「本番前」等

これを有効に活用できます。しかし、限られた時間の中、大人数の行動スケジュール作りは相当難かしく、マネージャー一同も頭を抱える面も。メンバー各位には当日の大なるご協力をお願いする次第です。
具体的なスケジュールは、六月二十七日(月)に会館側と第一回目の打合せを行った後、次回マネ会(七月三日)で検討決定の予定ですが、稲グリの方では練習は朝一番となる予定です。集合時間は午前九時頃となりそうです。
■次回マネ会(第十一回)
七月三日(月)午後七時・M物産「検討事項」
*当日の練習、本番スケジュール
*オンステージ人数(弁当の数の関係あり)、並び方
*打上げ出席者数の予測 他

稲グリ 活動日程

6月27日(火)	練習	18:00~21:00	東混練習場※
7月4日(火)	"	"	"
9日(日)	OB四連「合同曲練習」	13:00~16:30	東京文化会館リハーサル室・No.1
11日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
15日(土)	オケ合わせ	15:00~18:00	奉仕園(大) ※
16日(日)	"	14:00~17:00	" ※
18日(火)	練習	18:30~21:00	東混練習場
22日(土)	ゲネプロ	14:00~17:00	プレイス24 ※

23日(日) 第7回東西四大学OB合唱連盟演奏会
13:30 開演予定 東京文化会館

※=指揮者・堀俊輔さん出席

6月26日(月)	OB現役交流会「源兵衛」(西早稲田)
7月1日(土)	大阪稲グリ・坪井会長次女ご結婚 稲グリ「コーラス・プレゼント」 14:30 集合 ちば共済会館(千葉市)
2日(日)	OB四連大阪地区合同練習 午後 盲人情報文化センター(肥後橋)
3日(月)	OB四連マネ会 19:00~M物産会議室
8日(土)	「第2回大学OG合唱団合同演奏会」 サントリー大ホール
10月21日(土)	特ステ「岸洋子リサイタル」出演① 19:00 開演 ゆうぼうと(五反田)
22日(日)	特ステ「早稲田大学・校友大会」出演 大隈庭園 特ステ「岸洋子リサイタル」出演② 15:00 開演 ゆうぼうと(五反田)
12月3日(日)	「平成元年度・総会」 「第8回グリーンクリスマス」私学会館
未定(土)	「コーラス・イン・マリオン」(予定)

OB四連「本番」間近、悔いのないステージが「打上げ」のビールの味を決める。ガンパロー!!

チケット販売状況

指定席は注文殺到で、稲グリ持ち分は完全にオーバー、他団から仕入れたり、多少の変更に応じてもらったりで何とか調整を終えましたので、六月二十七日(火)から配布いたします。
自由席は出演メンバー割当てを五枚ずつとしており、合宿から配布しています。あと三十枚ほどですが、まだのメンバーはお申し出下さい。

ユニフォームのこと

ユニフォームは土屋ステマネの方で検討中ですが、基本的に次のようになりそうです。
(上)Tシャツ(日本航空提供)
(下)Gパン類(自前)
(靴)スニーカー類(自前)
七月四日に確定の予定。

打上げのこと

打上げのパーティー券も既に発売されています。会場混雑を避けるため、早めにご購入下さるようお願いいたします。
*メンバー及び男性券 @五〇〇〇円
*女性及び小中学生券 @三〇〇〇円

バルトーク作曲 オペラ「青ひげ公の城」

演出……………実相寺昭雄
演奏……………東京交響楽団
7月2日(日) 藤沢市民会館
午後2時開演
全席指定 A 四〇〇〇円
B 三〇〇〇円
C 二〇〇〇円
稲グリ担当……………遠藤(三七)

大阪稲グリ・坪井会長令嬢結婚披露宴

「コーラス・プレゼント」の件
担当 飯田(二八)小俣(三八)

次の要領です。都合のつか方は是非ご参加下さい。
◆新郎 高山直 新婦 坪井理佳
◆日時 七月一日(土)
午後二時半現地集合
◆千葉市・ちば共済会館 稲グリ控室
(練習場に地図あり)
◆稲グリユニフォーム・ネクタイ
斎太郎、最上他、夏の思い出、舟人の歌(本番は譜持ち)以上

出席記録

	5/16	21	23	30	合同 6/3 6	10	13	合宿 17~18	20	
T ₁	11	10	10	10	6	10	7	9	13	8
T ₂	9	6	9	9	5	11	8	12	14	12
B ₁	10	4	8	10	6	11	10	11	15	11
B ₂	17	10	14	14	7	22	11	17	20	18
	47	30	41	43	24	54	36	49	62	49

【ハミダシ編集後記①】今号はT₁永井さん(四二)が「陣中見舞だ」と編集局に来訪。最後までいついてしまったが、多少は役に立つのでネコよりはましという感じでした。(E)

お待たせしました

「ソビエト連邦演奏旅行」決定!!

演奏会は二回開催 — 「全ソ音協」と大枠合意

幹事長 加藤 晴生(三七)

東京 発/着

■内容

去る三月、稲グリ幹事会にて若手幹事の強い要望により、来年度のビッグイベント海外演奏旅行の行先をソ連とすることを決定いたしました。その後、受入先の全ソビエト音楽協会と交渉を続けた結果、この度、同協会との間で大枠に付き合意に達しました。今後、詳細条件等に付き同協会と具体的な詰めに入りますが、計画・合意概要は次の通りです。

期 間 一九九〇年四月二十九日(日) / 五月六日(日)

四月三十日 モスクワ 五月 二日 レニングラード て、それぞれ一流コンサートホールでの演奏会開催(稲グリ新聞前号No.六六の日程変更)。主催 全ソビエト連邦音楽協会 現地関係者との懇親パーティー(モスクワ、レニングラード各二回)。各地の観光。

真剣勝負だ、甘さはいらない!

OB四連・強化合宿を終えて

指揮者 堀 俊輔

今回の合宿は非常に実り多いものであった。これまで下稽古をして下さった土屋(山本(正)両指揮者にまずはお礼を申し上げたい。十五年前、現役の時、この二、三倍苦勞したことを思えば、今回はスタッフにも恵まれ、非常に仕事がいやしいのは、本当に有難く感ずる。

メンバー各位には、あまりお目にかかったことの無い音符にどこまで挑戦できるか、最初は不安であつたが、立派に消化化されているのには敬服する。今後、この調子で自分自身が楽しむためにも、暗譜を完全にすることを望みたい。個人的なことを言えば、指揮者は常に自分自身で出来る最高のものを望むものである。たとえ相手

費用、四〇万円以下、

飛行機一〇〇席を確保済み

参加人数は過日のアンケートを基にメンバー六十五名、家族(同伴者)三十五名の計一〇〇名が見込まれていますが、人数枠の拡大は可能です。また、旅行日程がゴールデンウィークと重なるため取り敢えず航空機座席一〇〇シートを確保しています。

費用は、来年度の航空運賃が未定ですが、三食・観光込みで一人当り四十万円以内(三十五万円前後を目標に努力)の見込み。

堀指揮者も同行

今後七月上旬までに幹事会を開催して、具体的方針等を決定しますが、現在すでに土屋チーフ演奏

ブラボー!

我等が稲グリ指揮者、堀俊輔氏ワセオケを振る

B.阿部 滋(五七・稲グリ専属ピアニスト)

ワセグリが放った今世紀最大の音楽的逸材である堀俊輔氏(五〇)とこれまた、アマチュアオーケストラでは他の追随を許さないワセオケとのコンビは正に値千金であつた。

六月十日(土)夜、練馬文化センター大ホールで堀俊輔氏指揮の「早稲田大学交響楽団フレッシュコンサート」を聴いた。プログラムの第一ステージはシューベルトの「6番」、第二ステージは氏の得意なオペラ序曲集ということであつたと思ふ。

黒の燕尾服に身を包んだ氏の勇姿はカラヤンや小沢征爾をも彷彿させるエンターテイナぶり、ドタ靴をはき、猫背歩きで指揮棒を持って「オッさん、暗譜やてし

幹事(音楽監督・四四)を中心にプログラムを案作りを進める一方、伊東助教(早大露文科・四七)により稲グリ紹介などのロシア語版を作成中。また、堀俊輔くんよりも参加の内諾を得ています。

若手メンバーの積極的参加を!

先に述べましたように、この大演奏旅行は若手の希望を反映した計画であり、古手、中堅はもとより、昭和五十年卒以降のメンバーの積極的な参加を切望する次第です。

六大学OG合唱団第2回合同演奏会

- I 聖心女子大学グリークラブOG会 「三声のミサ曲」より 指揮：渡辺宏子
- II 桜友女声合唱団 女声合唱組曲「秘密の花」より 指揮：外山浩爾
- III 女声合唱団しおん In The Still of The Night 指揮：北村協一
- IV 桜楓合唱団 「秋来ぬと」(梁塵秘抄より) 指揮：田中信昭
- V 学習院輔仁会音楽部OB会女声合唱団 「マザーグースの歌」より 指揮：福田一雄
- VI 慶応ワグネルOG合唱団 「フォーレ合唱曲集」より 指揮：北村協一
- VII 合同演奏「唱歌の四季」指揮：田中 信昭

1989年7月8日(土)午後2時開演 サントリー大ホール 全席指定：A席=2,500円、B席=2,000円、C席=1,500円、P席=1,000円

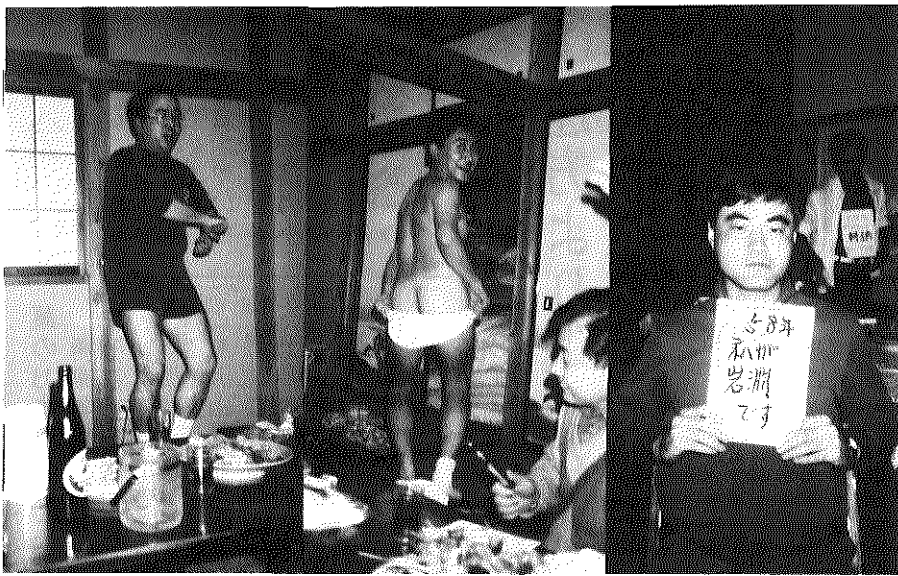
「ハミダシ編集後記②」今回のOB四連に名古屋地区のOBもと、土屋卓司さん(四二)、本多一義さん(五一)が東海クローバー等とジョイントで練習に励んでいます。ガンバレ!

【ハミダシ編集後記③】十月中の週末、一泊二日会津高原小旅行の特ステ。幹事会は実施の方向で検討中。混欲の露天風呂と紅葉を楽しみついでに歌う。詳細次号。(S)

稲グリ合宿「ボート(暴徒)ピープル」



■ ミスターナツメ口氏とT井さん(24) “オジサン暴徒”



■ 2拍3連をメチャクチャにしてしまう “暴徒” F島さん(55)
 ■ 二次会を大混乱に陥れる “初代洗濯屋暴徒” I川さん(61)
 ■ 天安門から合宿に亡命した “いわゆる暴徒?” 一関から参加

ウエストサイド・ストーリー
『強化合宿』

■ 平成元年6月17日(土)~18日(日)
 ■ 河口湖・ロッジコニシ
 ■ 参加総数=64名
 T₁ =13 T₂ =14
 B₁ =15 B₂ =20
 小林真理子(P)、佐藤房子



■ “カンパニー!” 夜の懇親会に突入

稲グリ「合宿こぼれ話」

永井 秀夫(四二)

自慢ではないが稲グリの合宿に参加するのは今回二度目である。日曜、祭日が休んでない非国民のわたしにとって合宿参加は正直勇気のいることである。だから今回はとてもうれしい。ウイスキーを差入れてくれた庄やの「マドンナ(登 紀子さん)」は店の帰り際に、「たっぷり楽しんできて下さいね」ときたもんだ。遊びに行くとも思っていないらしい。家内も「飲みすぎない様にね」と釘を刺す。これを俗に糠に釘と云う。さて午後六時、明るいうちに囚人めしを喰う。隣の境界線が判らぬ程の馳走の山である。一吠え

した後のめしは旨い。それにしてもおかずが多過ぎる。アフリカ難民の子供達に食べさせてあげたいとつくづく思う。夜の練習を二時間半みっちりやったら後、やっぱ酒にありつける。五十人を越す野郎達にかかるとは一〇〇本のビールなんぞひとたまりもない。諸先輩は思い思いにパンジャマや似合わないトレーナーに着がえて至極御満悦である。ネクタイを取ればやはりただのおじさん達だ。「こりやまるでサナトリウムだ」と誰かがひどい事を云う。ウエストサイドとサナトリウムか、二次会になればミスターナツメ口奈良原氏(三六)の独壇場である。「誰も知らない懐かしい歌」を一人でブチ歌って、決してハモらせないところがすごい。

合宿お疲れさまでした。少し赤が出ましたが収支的には何とかやり繰りできましたので、ここに報告いたします。

平成元年六月十八日

村長 小俣泰英(三八)

合宿収支報告

収入の部			支出の部	
会費	10,000×43	430,000	宿泊代	557,900
	9,000×11	99,000	おみやげ代	4,000
	5,000×1	5,000	コピー代	700
	3,000×6	18,000		
	計	552,000	計	562,600
			差引収支差損	△ 10,600
	合計	552,000	合計	552,000

アニストの小林さん、それに松尾さん始めコニシの皆さん、お世話になった方々に御礼申し上げます。よし、これで東西OB四連はいたできた!!

子供が主役

三十六年に卒業して以来、たびたび全国同期会をやった。その状況の変化が面白い。

たしか第一回は卒業後三年目に浜松弁天島で。早くも結婚したものの、婚約中のももいたがほとんどは独身。皆一人で集まった。

十年目。(この頃から現役時代に春の合宿を四年続けた思い出深い伊豆でやるようになった。)ほとんどもまだ小さな子供連れだった。妻同伴当然。

十五年目もみんな子供連れ。小学校高学年が中心で、まだ親の言うことをよく聞いた。

ずつと今頃は二十八年目。(場所下田御用邸に近所。真下君の会社の寮一グンゼ産業一貸切。六月三日、四日。)家族会だから奥方はもちろん、子供達も連れてくるよう誘ったのだが、その子供達は親離れ(子離れ?)でそう簡単にはついて来てくれない。

ところが小さな子供が二人来てくれたのだ。一人は名古屋から参加した高橋君の初孫。(もちろんお母さん即ち彼の娘さん、お祖母ちゃんも来ました。)もう一人が



二六六会家族会

小柴君の真正正銘の四歳になる娘さんなのです。(オレンにもこんな可愛い子供つくりたいものだが能力あるかな、などとボヤいていた輩あり。)この二人が人気をさらってしまいました。子供の小さい時は本当によいものですネ。

そして松江からは大変評価の高かったあの「お菓子の博覧会」の仕掛け人、内藤君夫妻が全員に銘

友あり、遠方より来る

神保町に懐旧の花咲く

五月十八日(木)、午後六時半神保町「養心かめや」にて三十七年卒の緊急ミーティングが開かれた。

この春、大学に入られたご子息のアパート(?)一検分に岡山県津山市より上京された竹久重義君を迎えてのもの。ミーティングの議題は「懐旧」副題「熟年パワーの泣き笑い」。

竹久君は卒業と同時に家業を継ぐべく郷里に帰られた人。知る人ぞ知る「竹久旅館」の御曹子であり、地元では名士として、その名を欲しいままにしている御仁でもある。遠藤君の指令により参集。

突然のこととスケジュールの調整がつかず、欠席された人がいたのは残念であったが、それでも出席者十二名、先ずは会は成立。

卒業以来初めての顔合せという人もあり、懐かしさに涙する場面もあつたとか。頭髪、健康、肥満度、子供の教育と進路...と探検を求めないテーマに、ほどよい潤滑油の働きで、話の花は咲きつばなし。稲ぐり幹事長加藤君を擁す

菓のお土産付きで参加してくれた。再来年は三十年記念会を盛大にやることを誓って「GOD BE...」で締めたいというまでもない。(当夜のこと、他のメンバーのことも沢山書きたいが、紙面の都合で残念ながら割愛致します。)

《出席者》井沢、石川、井上、小川、小柴、高橋、内藤、長沢、奈良原、真下(以上奥方及び子供同伴)。金子、千葉、藤田一人参加。△幹事・井上 記▽



右から三人目、Vサインが竹久さん

あれ、友あり遠方より来る楽しいひとときであった。

《出席者》
1 T 竹久、石塚、堀内
2 T 加藤、遠藤、耕納、関口
1 B 吉添、服部
2 B 辻田、杉浦、武内

△関口 記▽

風薫る五月、皆様にはますますご活躍のことと存じます。

先日は、ご多忙中、ポニージャックス三十周年記念オラトリオ「ヤマトタケル」愛と平和への出発にご出演いただき、ありがとうございます。おかげ様で、大盛況のうちに、会場全体が一体となった素晴らしいコンサートを終えることができました。

なにしろビッグイベント、しかも初演のこととて、譜面の変更その他色々ご迷惑をおかけいたしました。こんな条件の中、しかもあの短期間で素晴らしい歌声をきかせて下さった皆様、ただただ感謝感激の気持ちでいっぱいです。

ステージ上で皆様の力強い歌声に囲まれて、私達はしみじみ三十年の喜びを噛みしめました。

この度の成功に力を得て、私達はこの作品の日本音楽界への定着のため、これからも上演を続けたいと思っております。今後とも皆様の暖かいご協力をお願いいたします。

この度は、本当にありがとうございます。

平成元年五月吉日

久保 久夫
西 脇 久夫
原 島 武雄
坂 田 元彦

昨日(六月二十四日)、東京文化会館で現役の東西四連を聴いた。私は夜の部の方に行ったが、折りからの雨で聴衆の出足がやや遅れたものの、最終的にはほぼ満員。さすがにこの演奏会の価値を知っている人は多い。

早稲田は二年半ぶりに、マールアイの「さすらい若人の歌」を演奏。つまり四年生諸君は一年生の時の定演の学指揮ステージで一度歌っているわけで、その点、練習段階での音とりはスムーズに進んだことだろう。となれば、小林研一郎氏が振る以上その成果は期待が持てたし、実際私に関する限り、それは裏切られなかった。例の如く久瀬之宜氏の表情豊かなピアノ伴奏にも助けられ、抜群の緊張感の中で、青春の光と影、感情の起伏を、現役諸君は見事に表現していた。部員の中には自らの失恋体験とオラトリオラップさせて、激しく感情移入した者も多数いたに相違ない。OB担当サブマネの土岡一郎君も、日頃「オラトリオ」している彼らよりもなく、真つ赤な目をしていたのが印象的であった。

他校および合同ステージについては、紙面の都合もあり触れないが、私見では、今回はエールからストームに至るまで、各校の好不調が割合はつきりと出ていたと思う。早稲田はその中であって好調の側と云ってよからうが、決してそれに奢ることなく、次なる目標めざして更に精進してほしいものではある。OBも一か月後に同じ会場で四連の本番を迎えるわけであるが、現役諸君に負けないよう一杯やるつもりだ。

なお、余談になるが、聴衆の無神経なノイズや、しつこいブラボの嵐(安売り)は今回少し残念に感じられた点である。

(文責・佐々木現役担当59)

OBも続くぞ!

第三十八回東西四連を聴く!

リアンなのだ。(S)

我々は不可能を可能にするオシタ